

令和5年度協同農業普及事業外部第三者評価会議  
**評価結果に対する普及指導活動への今後の対応について**

**1 普及指導活動の体制について**

	評価結果及び改善方向に関する助言、提言	今後の対応
<b>体制強化</b>	<p>本年度より定年延長など仕組みの変更によりスキルを持った人材が確保できる一方で、10年後、若手の職員不足とならないよう年齢構成バランスを考慮のうえ、地域ごとに最適配置をお願いします。</p>	<p>○新卒者や民間企業等職務経験者の採用を行い、ジョブローテーションの実施により幅広い視野や知識を身に付けた職員を養成してまいります。また、年齢構成バランスを考慮したうえで各地域に職員を配置してまいります。</p>
	<p>普及指導活動の体制については、常に環境の変化や時代の流れをキャッチしながらタイムリーに対応していくことが必要。</p>	<p>○国の施策に基づき、国内外の社会情勢を鑑みたくえで、迅速に対応できる体制を整えてまいります。</p>
	<p>農業の危機に対する県としての大きな方向性を示した上で、それを実行に移すための普及指導体制の強化を図るべき時ではないか。</p>	
	<p>農協、市町村等自治体の連携が図られており、担い手問題を中心に地域農業の課題に取り組んでいると評価できる。逆に、他機関と緊密に一体的に取り組まれている場合は、普及事業だけを切り出して評価することは難しいと思われる。</p> <p>こうした連携を構築する能力が普及員により強く求められてきていることから、経験を次に活かすことができる、また他地域で活かすことができるようなノウハウの蓄積をすることが求められる。</p>	<p>○普及事業は、関係機関の連携無くしては成り立たない事業です。</p> <p>○ノウハウの蓄積については、※<sup>1</sup>「普及指導データベース」や※<sup>2</sup>「ek-SYSTEM」の活用を勧めています。</p> <p>優れた普及方法については、「普及活動高度化全国研究大会」の事例研究、普及方法をテーマにした普及指導員研修などで、情報収集や共有を進めており、今後も、普及方法の継承や横展開が図られるよう努めてまいります。</p> <p>※<sup>1</sup>「普及指導データベース」は愛知県の普及関係職員専用のクローズドシステムで、調査研究成績書、研修資料、技術指導参考資料など、普及指導員の活動を手助けする情報を掲載しています。</p> <p>※<sup>2</sup>農業改良普及事業に携わる普及職員が、より効果的・効率的に活動するための技術・経営情報等を提供するサイトです（会員専用）。</p> <p>また、情報交換や議論の場、学習の場も提供しています。</p>

	<p>基本的な体制は、整っているように思いますが、関係機関と連携しても、目指しているところが現状とマッチしているか、農業者を経営者に出るかという点で指導員の今後の手腕が問われると思います。</p>	<p>○経営指導に関する研修を、普及指導員の育成段階に応じてステップアップできるよう、初級・中級・上級の3段階で実施しています。今後も農業者の課題を把握し、必要なスキルの向上に努めてまいります。</p> <p>○愛知県農業経営・就農支援センターの活用を促し、専門家の助言を受けながら農業経営の高度化を支援してまいります。</p>
<p>人材育成・資質向上</p>	<p>職員と農業者の相互に世代間ギャップが生じ考え方も異なってきていることから、コミュニケーションスキルの習得を研修科目として加えてはどうか。</p> <p>現在実際に担っている方の年齢は、どんどん高齢化していくと思うので、高齢者への話しかけ方、説明の仕方、家族を含めた同意の得方など、今まで以上にコミュニケーション力が普及員への必要なスキルとなっていくと思います。ご専門の他に身につけていただきたいですし、新しく普及員となられる皆様への研修項目として重要な位置づけを望みます。</p> <p>概ね上手にまわしていると思うが若い普及員には地域の気質等わからず苦労があると思うが、地域経験の長い普及員の担当を超えた時折々のサポートも必要。</p> <p>普及所の全職員がその成果を実際に手にし、仕事への喜びを感じられているのか。職員アンケートや上司による評価などで個々の事業の問題点を把握し、評価会議で説明があると良いと思う。</p>	<p>○コミュニケーションスキルについては、国、県、普及戦略部主催の研修でもテーマとして取り上げています。それらの研修受講を促し、スキルの習得を目指してまいります。</p> <p>○新任期には、トレーナーを始めグループ班長、普及課長に加え普及戦略部の革新支援専門員がOJT指導チームを結成して対応しています。これからも、複数のベテラン普及指導員がサポートする体制を整えてまいります。</p> <p>○個別のヒアリングに加え、チーム会や農業革新支援専門員を含めた課題検討会を通じ、業務の進捗や問題点について把握するようにしています。今後も、個々の職員が能力を発揮できるよう、問題点の把握と共有を行い、課題に取り組んでまいります。</p>

	<p>将来に向けて安定した経営を行っていくためには「事業計画」を作成することが必須。「人材確保・育成」「生産性向上」「事業計画」が3大テーマです。これらについて普及指導員にはしっかりと知識やスキルを学ぶ機会を提供しなければなりません。</p> <p>現在、愛知県では「農業経営塾」「女性リーダー育成研修」などの教育事業が行われていますが、その中で上記3テーマの講義も行っています。</p> <p>これらは、ビデオ収録も行われていますので、普及指導員には期限を決めて視聴させて、一気に基本知識とスキルを学ばせる方法を提案します。</p>	<p>○現在、「農業経営塾」「女性リーダー育成研修」講義につきましては、農業大学校と連携して、受講を希望する普及指導員が毎年受講しています。</p> <p>ご提案の普及指導員全体へのeラーニング等による受講につきましては、今後検討してまいります。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">関係機関との連携</p>	<p>農業は経済行為であり、農地の仲介・斡旋、農業技術の指導、日の浅い就農者同士の横のつながり強化など、これまでの行政の枠を越えた役割が求められているように思う。</p> <hr/> <p>普及課と市と農家・部会と意見交換する場は今もあるのでしょうか。</p>	<p>○普及指導員としての技術指導ならびに関係者間のコーディネート業務により、地域農業の問題改善に努めてまいります。</p> <p>○意見交換の場は、各生産部会単位の総会や各種協議会など、農業改良普及課ごとに様々な形で設けています。今後も地域内での意見交換を密に行うよう努めてまいります。</p>

## 2 普及指導活動の計画について

	<p style="text-align: center;">評価結果及び改善方向に関する助言、提言</p>	<p style="text-align: center;">今後の対応</p>
課題設定	<p>時代の要請に沿ったテーマ（例えば、ドローンの活用、省エネ対策、など）を決めて、それについて各地区の取組などを報告してもらい集約するなどの「テーマ別研究」も同時に行ってはどうかと思う。</p>	<p>○部門別研究や最新情報は「農業技術体系化会議」で共有しています。今後も県内複数の農業改良普及課で組織して研究を行う「広域調査研究」により、時勢に応じたテーマ別研究活動を実施してまいります。</p>
	<p>2023 年度の普及指導活動の中で、猛暑対策が検討されているのは、実用化技術研究会の野菜（トマト）でわずかにみられるだけ。暑さは今後さらに顕著に、期間も長くなるほか、病害虫も増えると予想されている。農業が生き残るための暑さ戦略を立てられるのは県（市町村には難しい）だけである。</p>	<p>○農業総合試験場では暑さだけでなく地球温暖化に伴うとされる気候変動に対応するための研究を行っています。農業改良普及課では事象に応じた課題を設定し普及活動を実施してまいります。</p>
	<p>これからは個人ではなく、農業法人、農業企業にしていくのがよいのだろうか。</p>	<p>○愛知県の農業経営体は、2016 年 36,074 戸、2020 年 26,893 戸（約 25%減）と年々減少し、この傾向は今後も続くと予想されます。一方、農業産出額は一定の水準で維持（2016 年 3,154 億円、2021 年 2,922 億円）しています。これはご指摘の農業法人や農業参入企業と個人経営体の大規模化による生産が下支えしています。</p> <p>愛知県は競争力のある産地を維持するため、個人経営体についてはより省力化・生産性の向上を推進し、外部人材を積極的に活用していく雇用の経営については農業法人化を推進してまいります。</p>
	<p>現在農業の問題として外的要因による経費の増大、それに伴う経営の圧迫、後継者不足を含めた農家の減少が大きな問題だと感じる。その点を踏まえ、農業経営の安定化、地域農業の活性化、後継者、新規就農者拡大を含めた計画も必要。</p>	<p>○県の「食と緑の基本計画 2025」で愛知県農業の維持発展に計画的に取り組んでおり、新規就農者につきましては、5 年間で 1000 人確保する数値目標を掲げ、普及活動を実施しております。</p> <p>農業改良普及課では担い手の確保・育成を中心とした総合課題で対応してまいります。また、就農後も地域への定着に向けたアフターフォローの取組を強化してまいります。</p>
	<p>人口減少に加えて少子高齢化が進行する今、人の確保がますます困難になるため、育成を強化し能力を高め発揮できるための取組が必要。</p> <p>人が増えなくても生産が保持できるあるいは増加できるためには「生産性の向上」以外にはない。</p>	<p>○就農希望者の就農に向けて事業や補助金、制度資金の活用を推進してまいります。就農後は、個別にフォローするとともに、就農セミナーや「農業経営塾」等の教育機会を提供してまいります。</p> <p>生産性の向上に向けては、新品種、新技術の普及、スマート農業の推進等を積極的に実施してまいります。</p>

目標設定	<p>評価会議の席上で「5年後10年後には担い手が確実に減る」という説明があったが、一部の農業経済学者の試算によると「20年後に農業従事者は現在の4分の1に激減する」という見方もある中で、近い将来の愛知県農業をどう継続させていくのかが問われている。</p> <p>新規就農者数の目標を5年で1000人と示しているが、残念ながら抜本的な対策には見えない。</p>	<p>○ご指摘のとおり農業に従事する人の減少が多く、県が目標とする新規就農者数を確保しても農業従事者が減少していく傾向にあります。</p> <p>それに対する方策としては、生産性の向上が上げられており、スマート農業など最新技術を速やかに現場で実装する取組を進め、愛知県農業の維持発展に努めてまいります。</p>
	<p>部門あるいは作目ごとに全国的な産地動向をリサーチして見定め、県内産地の将来ビジョンを策定し、それに沿った行動計画が必要になると思われる。</p>	<p>○県外の農業革新支援専門員や全国ネットワーク会議等に参画し、全国情報を収集しつつ、地域農業の分析を行い、普及指導計画に反映するよう努めてまいります。</p>
	<p>愛知県の農業振興に基づく普及戦略として、将来を見越した県域単位で取り組むべき方向・課題（例：一体的支援プログラム、みどりの食料システム戦略、あいち農業イノベーションプロジェクト）を取組事項へ落とし込み、計画および目標策定をお願いします。</p>	<p>○県域単位で取り組むべき課題は農業革新支援専門員が中心となり方向性を定め、農業改良普及課と一体となり進めてまいります。</p>

### 3 普及指導活動の経過、実績及び成果について

評価結果及び改善方向に関する助言、提言		今後の対応
成果の評価	添付資料に多くの取組課題・内容が掲載されています。説明の必要はないのですが、何がどこまで進んでいるのか進捗を提示いただくと、より普及活動の実績・成果が分かりよいのではないかと思います。	○今後は、進捗が把握しやすい資料提供ができるよう検討してまいります。
	現地調査した春日井市・小牧市のモモ栽培サポーター制度に関しては、農家の人手不足をボランティアで賄おうとするやり方が一定の効果を上げていることが分かった。ボランティアのモチベーション、技能にばらつきがあり、多人数の管理・意向の集約等の事務作業に多大な労力が掛けられていて、事業全体の費用対効果はどの程度プラスになっているのかという疑問も持った。	○費用対効果を考慮しない試行的取組から脱却し、今後は費用対効果を意識しながら改善し、取り組みを進めてまいります。
	小牧の事例について都市近郊の立地をいかし農家の高齢化対策とともに地域の農業への理解にも対応した良い事例だと思う。農家、JA、普及がうまく協力、対応していて他地域への拡大を望む。	○優良事例として情報共有し、他地域への波及を進めてまいります。
	豊川の事例については新規就農者の拡大に成果をあげているが旧JA間の難しさを解決していくには担当だけでなく課内、JA担当を含めた更なる対応を望む。	○農業改良普及課内では課題に対するチームを組織して対応しています。また、JAや市役所との協同体制を整えてまいります。
成果の展開	<p>個々の活動の成果を蓄積して（地域を越えて）県全体でその経験を共有できるようにして欲しい。</p> <p>発表事例を成功モデルとして他地域へも水平展開して、地元JAとも協議のうえ、実践してもらおうようお願いします。</p> <p>報告された事例については、それぞれ工夫がなされて、他の地域への波及も期待されるものだった。逆に言えば、こうしたものをさらにわかりやすく標準モデルを作成して、各普及課に提供していけばいいと思う。最終的には、そうしたものを「データベース」にできる仕組みを構築し、活用できる体制を作ることを提案する。そのためには、様々な情報の「検索の仕組み」が重要。</p>	<p>○普及活動成果の発表等を通じて情報共有し、他地域への波及も進めてまいります。</p> <p>○普及情報データベースの充実と活用に努めてまいります。また全国農業改良普及支援協会が全国の普及活動の優良事例をデータベース化（ek-system）して蓄積しており、その情報についても積極的に活用するように進めてまいります。</p>

#### 4 その他（課題の提案等）

	評価結果及び改善方向に関する助言、提言	今後の対応
課題の提案	<p>海外品に頼らず、国産品で継続して農業が可能になるための仕組みを作り、日本の食料自給率を大きく向上させること。</p>	<p>○国内産の飼料の作付けや国産肥料の活用、耕畜連携による循環型農業の推進を進めて、外部環境に左右されない強い農業を進めてまいります。</p>
	<p>生産振興において新規就農者、労働力支援の取り組みが重要と考えます。広い門戸で募集する農業大学の農起業支援ステーションの体制が確保できていますが、重点品目ごとの体制の構築（技術相談、補助など）が必要と考える。</p>	<p>○各農業改良普及課では、担い手担当と技術経営指導担当が連携し、新規就農者の確保と技術の向上に取り組んでまいります。</p>
	<p>今後は、新規就農者の受け入れ・指導体制など地域の農家皆で支える仕組みが必要だと感じていただきたい。</p>	<p>○農業者や生産部会が一体となって地域農業を支えることができるよう、関係機関と連携を図ってまいります。</p>
	<p>後継者を含め、新規就農者の確保</p>	
	<p>都市住民など非農家からのサポーターの発掘と活用については、ますます重要度が増す。そのなかで非農業者を対象とした普及活動をどのように行っていくのかを検討していただきたい。</p>	<p>○今回の発表事例のように、農家の高齢化や担い手不足を補完できるような地域のサポート体制づくりなどを、関係機関と連携しながら課題を解決できるよう取り組んでまいります。</p>
	<p>新規就農者を発掘、育成することと並行して、現在の農業経営者の家族が、後継者にならない理由や原因をしっかりと把握することが必要だと思う。農業離れがなぜ進むのか、根本的な問題を解決することも今後は必要ではないかと強く思う。</p>	<p>○農業を魅力的な職業としていけるよう、技術と経営の両面から支援してまいります。</p>
	<p>生産者ではありますが、農業「経営者」としてのスキルを研修していただく必要があるのではないかと感じました。良い事例をより多く学習していただき、生産者の態勢強化につなげていただきたいと思えます。</p>	<p>○農業者が経営者マインドを身につけるための研修「あいち農業経営塾」などへの参加を推進してまいります。</p>
産地全体の取組支援	<p>65歳前後が半数を占める部会では、10年後はまだしも、15年後にはなくなってしまう可能性がある。今のうちに、新たに農家をやりたい若者の指導者としてこの年代の人を使ってほしい。</p>	<p>○今後団塊の世代のベテラン農業者が引退の年代になってきます。長年の営農ノウハウが次代につながるような技術伝承システム作りは重要です。各作目で「塾」として仕組み作りは始まっており、技術伝承システムの優良事例については横展開を進めてまいります。</p>
	<p>地域・品目で産地をけん引するリーダー農家の育成を合わせて検討することが重要と考える。</p>	
	<p>高齢化に伴う農業経営モデルの提案</p>	

	<p>普及課の情報・指導力、もっと末端に感じさせてほしいです。</p>	<p>○高齢化に伴う農業の労力不足に対応するため、自動化・省力化のためのスマート農業技術の推進や、生産性の高い新技術・新品種の開発と普及に努めてまいります。</p> <p>○普及指導員についても中堅・若手の普及指導員が活躍できるようベテラン職員がサポート出来る体制を整えてまいります。</p> <p>○農業経営士等の組織活動支援を通じてリーダーの育成に取り組んでまいります。</p> <p>○今後も現場での活動・指導に力を入れてまいります。また、ネット農業あいちや各普及課ごとのHPや普及だより等で情報発信を行ってまいります。</p>
<p>評価会議のあり方</p>	<p>評価会議において普及事業全般（その年度の新事業等）について詳しい説明が評価員にあると、全体を把握しやすくなると思われる。</p> <hr/> <p>愛知県全体からみるとあまりにも発表の数が少ない。</p>	<p>○全体説明を行えるよう評価会議の日程等について検討してまいります。</p> <p>○今年度は、現地視察と成果発表を1日で行い、成果発表については十分な協議が出来るよう質疑応答時間を長くしたため、発表課題数を抑えた形になりました。</p> <p>より良い評価会議になるよう今後日程等を検討してまいります。</p>